※デジタル×オフセットの「ハイブリッド印刷」
オフセット印刷による大量印刷と並行して、従来のオフセット印刷では、ロットの観点から非効率であった案件のほか、短納期出力、1件1件異なるデータの出力などデジタルならではの価値を付与できる案件に対してはデジタル印刷を活用する体制。
※マス媒体×パーソナル媒体の「クロスメディア提案」
ハイブリッド印刷で生産した印刷物とウェブマーケティング施策によるウェブページ制作ほか、アナログ×デジタルとマス×パーソナルの最適な組み合わせで全方位型の価値提供を実現する提案。

株式会社 NIREPLUS

事業計画名：
組織再編を契機とした営業・生産体制の変革による印刷企画会社への進化

本事業を活用して導入された高性能デジタル印刷機「Revoria Press PC1120（富士フィルムBI）」。デジタル印刷ビジネスの最先端を牽引するシステムの一つとして注目されている。生産性、画質、操作性、用紙対応力などさまざまな面が高く評価されているが、一度のプリントで多彩な色を表現できることが本機の大きな特色だ。CMYKトナーに加えて、ゴールド、シルバー、クリア、ホワイト、ピンク、カスタムレッドといった特殊トナーから最大2色を搭載できる。メタリックカラーや肌の自然な質感など、付加価値の高い印刷を実現し、デジタル印刷にかつてない表現力をもたらす。巻口社長は「こうした市場は利益率を上げる可能性があり、だからこそ顕在化していなかったニーズを新たな市場として掘り起こすチャンスが訪れている」と説明する。

事業承継による組織再編を契機に、最新鋭の高性能デジタル印刷機を導入
グループ会社との連携を強化し、ハイブリッド印刷・クロスメディア提案体制を構築

「Revoria Press PC1120」を使った印刷物の数々。輝きのあるシルバー、ゴールドなどプレミアムな印刷を手軽に実現できる。また、色紙やスケルトン素材に白をきれいにプリントできるなど、豊かな色表現がさまざまな顧客ニーズに応えられる。用紙サイズは、郵便はがきよりさらに小さい98×148 mmから最大330×488 mmの用紙まで、幅広いサイズをサポート。高いデザイン性と幅広い用紙対応力、多様な後加工などが相まって、印刷物の価値をさらに高めている。

チラシやパンフレット、名刺の印刷をはじめ、ウェブサイトや動画の制作、システム開発など情報を形にし、クライアントのビジョンの実現をサポートする仕事を幅広く手掛ける。2023年7月には、約70年にわたって親しまれた社名「楡印刷」を「NIREPLUS（ニレプラス）」へと変更。紙媒体からデジタルに移り変わる時代に、主力の印刷業にとどまらず、「紙とデジタルとリアル」の組み合わせから生まれる新たな分野に挑む決意だ。

景気悪化や情報の電子化などで印刷業界の市場の縮小傾向が続く中、4代目社長となった巻口さんは、出版社、広告代理店、新聞社など各種マスメディアで活躍していた経験を活かすべく、会社のかじ取りを託された。今は印刷事業が収益の柱だが、今後は系列会社や協力会社との連携で、オリジナル商品の企画・開発からデザイン、動画制作やインターネットを使った広告制作、広告戦略、企業プロモーションまでを自社グループで手掛ける強みを生かし、他の分野をさらに拡大していく計画だ。巻口社長は「顧客に喜んでもらうためには、どうしたらいいか。それを最優先に考えて、ときには自社サービス以外のものも提供していく。顧客のやりたいことや目指したいことを一緒に考え、創り出すところからかかわっていきたい」と将来像を描く。

本事業では、事業承継による組織再編を契機に、高性能デジタル印刷機の導入とグループ会社との業務連携を核にした、デジタル×オフセットの「ハイブリッド印刷」での生産体制の強化と、マス媒体×パーソナル媒体の「クロスメディア提案」の推進を目指した。

事業の背景　印刷業界に逆風が吹く中、独自色を発揮し、新たな成長戦略を描くための事業承継

紙媒体からデジタルに移り変わる時代に、印刷業界を取り巻く環境は厳しく、業績の見通しも立てにくい中、楡印刷が独自色を発揮し、成長戦略を描くため、事業承継を含めた将来ビジョンの検討を進めていた。後継者として、リフォーム会社やウェブ広告・制作会社など6社から成る〈はにうグループ〉を率いる羽生功二さん（現：NIREPLUS会長）を迎え入れた。これまで取り組んできた多様な事業活動の中で、羽生さんのさまざまな経験と人的ネットワークの活用や、グループの経営資源を融合させることによる新しい事業展開を見据えてのものだった。

実施内容　巻口基樹社長を迎え入れ、営業生産体制を変革。最新鋭の高性能デジタル印刷機を導入

デジタル×オフセットの「ハイブリッド印刷」での生産体制の強化と、マス媒体×パーソナル媒体の「クロスメディア提案」の推進を事業再編成の基本方針とし、設備と人的リソースの拡充を図った。札幌市出身で、大手出版社、広告代理店勤務の経験もある広告マン・巻口基樹さんを取締役社長に迎え入れ、最新鋭の高性能デジタル印刷機「Revoria Press PC1120」の導入を武器の1つとして印刷企画会社への進化を目指した。

「どんな仕事も人と人のつながりがベースと感じている」と話す巻口社長。「0と1しかないデジタル世界を扱っていても、昔の商いのような関係性を忘れたくない。私自身、営業に回る時は売り込みというよりも、『何か面白いことないか？』と世間話で盛り上がっていることの方が多い。そうした会話やかかわりの中から、顧客のお困り事や求めていることが見えてきたり、新しいサービスや事業のアイデアが生まれたりする。その瞬間には利益にならないことも、その後の縁につながっていく。すべて人との出会い。思いもよらないうれしい展開を数多く経験してきた」と笑顔で語る。

事業成果　ハイブリッド印刷生産体制構築など、印刷企画会社への進化を目指す基盤整備に成功

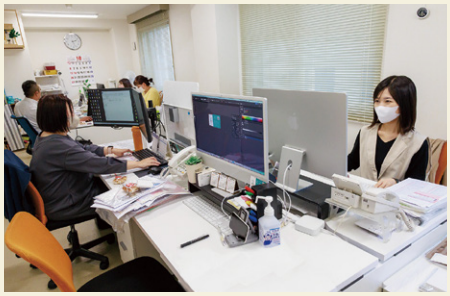
2023年12月期では、年間売上8,700万円のうち1,700万程度は、「Revoria Press PC1120」での印刷・制作となっている。具体的には、①インクなど目に見える原価は安くないが、印刷時間を中心とした効率、生産性が大きく向上した。②短納期の依頼にも応えられるようになり、従来にも増して高品質な印刷物を納品できるようになった。③特色の印刷など、「Revoria Press PC1120」の機能・潜在力をさらに生かすための営業活動、新商品開発など社内でも新しい動きが始まっている。

VISION　かかわるすべての人の幸せを追求しながら北海道経済・社会の活性化に寄与する事業を

取締役社長
巻口 基樹 氏

変化の激しい現在、常に自分自身が主役となって良い方向に変革することが大切です。私たちは常に「人」を通じて支えあい、文化を育んできており、「変化」も大きな「プラス」に転換できると考えています。北海道に拠点を置く会社として、道民の意識や経済の動向をしっかり把握し、自社とグループ会社の総合力を最大限活かすことにより、顧客の皆さんにベストな提案を提供すること。その結果、北海道の経済や社会の活力が増し、人々の生活がより豊かで便利になり、そして、より幸せになることを目指して事業を進めてまいります。ヒト、モノ、カネが国を越えて動き回るグローバル化に伴い、地方都市が直接、世界とつながることができる時代です。会社の存在が、地域、北海道、日本、そして世界の活性化につながる「幸せ生産工場」になれればいいなと思っています。仕事だけしていても、仕事ができるようにはならない。人と会ったり、家族と過ごしたり、本を読んだり。プライベートを謳歌して人生を豊かにすることが、仕事への意欲や成長につながると私は考えています。社員が幸せでなければ、顧客の皆さんに満足や感動は提供できません。だから、当社は「社員が幸せな会社」を掲げています。

当社にかかわるすべての人の幸せと喜びを追求しながら、当社にしかできないことを探し続け、「選ばれる会社」となることを目指します。



巻口社長は「印刷物に新しい価値を持たせたい」と話す。現在は印刷物の約1割が自社企画商品だ。女性だけで構成する商品開発チームを新たに発足させるなど、社内でも新しいアイデアが出てきやすい働き方の工夫をしている。

COMPANY DATA

株式会社 NIREPLUS
TEL.011-792-7762
FAX.011-792-7763
https://nire-net.co.jp/

- 所在地：〒065-0021 札幌市東区北21条東1丁目4番6号
- 代表者名：代表取締役会長 羽生 功二
  取締役社長 巻口 基樹
- 資本金：1,000万円
- 従業員数：9人（2024年11月現在）
- 創業：昭和29年（1954年）4月
- 設立：令和3年（2021年）5月
- 事業内容：印刷全般および製本、各種デザイン・プランニング、ホームページ制作・保守・管理業務、システム構築およびコンサルタント業務、データ入力業務、上記に付帯する一切の業務 など